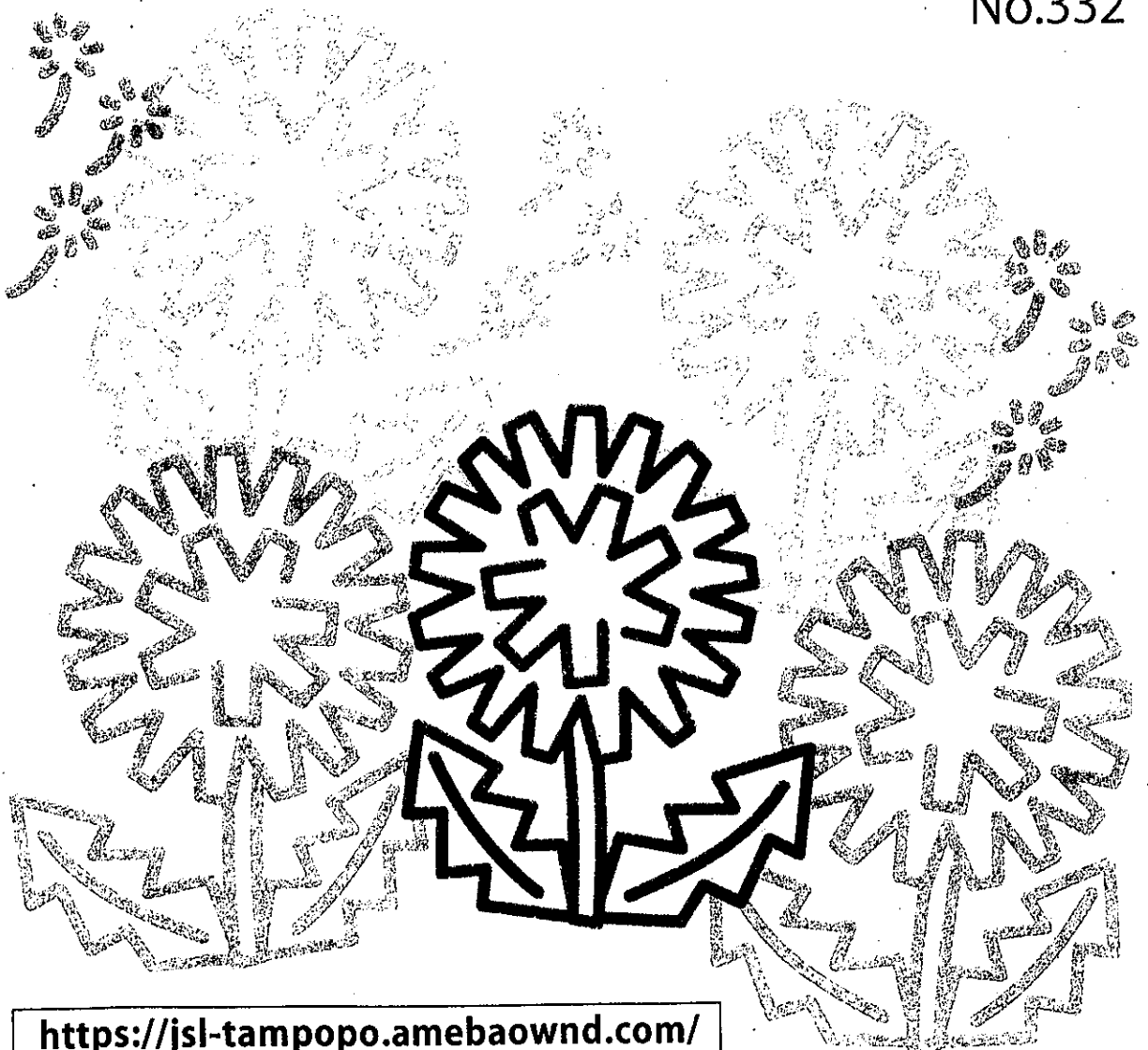


たんぽぽ

2023年度第

3号

No.332



<https://jsl-tampopo.amebaownd.com/>



2023年度第3回講演会 (8月29日しゃれなあと) 「デフリンピック2025」

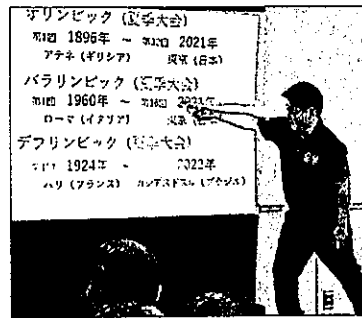
あいの 栗野 達人 氏

公益社団法人東京都聴覚障害者総合支援機構 理事長
東京都聴覚障害者連盟 会長
2025デフリンピック東京推進委員会 委員長

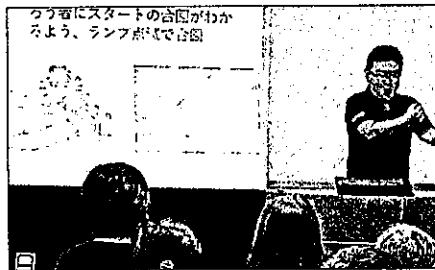
2年後に迫ってきた「夏季デフリンピック」について、推進委員会の栗野氏にお話をいただきました。

夏季デフリンピックは今度の2025年でちょうど100年の歴史があります。でも、その認知度はパラリンピック98%よりもかなり低く16%あまりだそうです。

身体障害者競技大会パラリンピックは全員聞こえるので英語になります。ろう者のデフリンピックは、情報保障はやはり手話や字幕になります。国際手話とジェスチャーで、選手同士は出身国関係なく会話ができるのです。



デフリンピック (夏季大会)
初回 1896年 - 次回 2021年
アテネ (ギリシア) 東京 (日本)
パラリンピック (夏季大会)
初回 1960年 - 次回 2024年
ローマ (イタリア) 東京 (日本)
デフリンピック (夏季大会)
初回 1924年 - 次回 2025年
パリ (フランス) 東京 (日本)



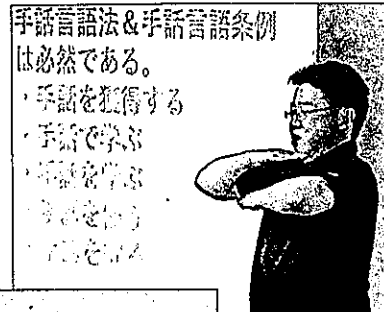
クワータースタートの合図がわかるよう、ランプが点灯する合図

競技の合図も笛や旗、ランプが使用され、審判からの注意指示がわかるようになっているとの事。バスケットボールではゴールのバックボードが光るよう、観客としても違う見方で楽しめるようです。

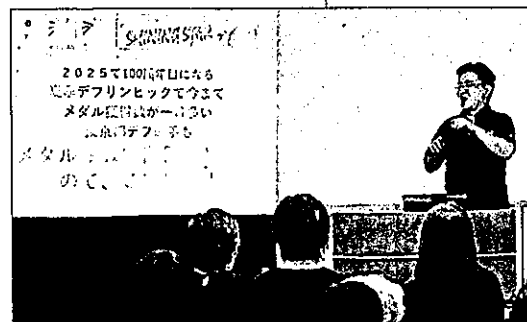
折から今呼びかけている手話言語条例についても、わかりやすくお話していただき、

東京都は6月制定・9月施行という事で、「手話は必要言語」という事を強く認識できました。

その勢いからこの「デフリンピック2025」を盛り上げようと「総監督」としての熱い想いが伝わった講演でした。



手話言語法 & 手話言語条例
は必然である。
・手話を獲得する
・手話で学ぶ
・手話を学ぶ
・手話を伝える
・手話を広げる



2025で100周年になる
夏季デフリンピックで今まで
メダル獲得は1か-1つ
に届いたデフ選手も
メダルを手にする
の、

雑居まつりに向けて準備が始まりました！

手話歌グループは『世界に一つだけの花』『小さな世界』の2曲。
手話パフォーマンスは『ろうってなんだろう』『デフリンピック』を考案中。
手作り班も復活して製作開始！

第48回雑居まつり：

10月8日(日) 10:00~16:00

(荒天時は9日(祝)に順延)

梅ヶ丘羽根木公園



たんぼぼ Deaf あるある

★電車の中では隣り合わせではなく向かい合わせで手話べる



バスハイク

<大森紀子>

楽しみにしていた4年ぶりのバスハイクに参加しました。しかも、初めて実行委員長を務めました。

コロナの影響を考え、いつもより参加定員数を少なくして募集を開始したところ、申込者が多く、あっという間に定員となりました。



心配した天気はバス移動中に雨が降り、運よくふじやまビレッジ到着前に晴れました。ラッキーな日でした。

到着後、初めてのバーベキューに取り組みました。火を起す役目の方が大変でした。暑くて汗を流しながら、うちわを仰いでいました。沢山の肉や、焼きそばも焼いて食べ、でっかく冷や

したスイカも甘くて美味しかったです。中山さんと瀧澤さんが切ってくださいました。ありがとうございました。



夕食も馳走でした。続きに研修。もっとも楽しみにしていた河内さんのゲームは、すっごく面白かったです。時間が足りないくらい盛り上がりました。

2日目の朝、晴れましたが、まだ夏が残っているかのように暑かったです。久しぶりに青龍山 吉祥寺へ行きました。相変わらずきれいな花が咲いていました。庭を眺めながら和菓子&抹茶を一品して、近くの永井酒造も寄りました。最後にいつものように人気のある道の駅田園プラザに到着し、昼食などのんびり過ごしました。

無事世田谷に到着し、おかげさまで怪我もトラブルもなく楽しく帰って来て良かったと思えました。実行委員長としての役目は大変でしたが、実行委員と一緒にフォローや協力した甲斐がありました。参加した皆さんから、楽しかったと聞いて私も安堵しました。楽しい2日間でした。



発行 東京都手話サークル連絡協議会
代表 高田 直樹
http://tosaren.jp
tosaren_info@ybb.ne.jp
FAX : 03-3961-2445

担当者会議の時間も取れました。皆さま、ご協力ありがとうございました。
(報告：河野)

第25回自立支援センターまつり 報告

2023年7月17日(海の日)渋谷区 リフレッシュ氷川にて『第25回自立支援センターまつり&デフリンピックムーブメント東西南北』が開催されました。(南の字が強調されているのは今回は南ブロックでの開催で、今後、東ブロック(8/26)、西ブロック、北ブロックと同様なイベントを行うからだそうです。)

午前中の自立支援センターまつりの式典・基調講演・福引とリフレッシュ氷川内の展示・販売の参加費は無料で、午後からの映画『みんなのデフリンピック』の上映を含むデフリンピックムーブメントのイベントの参加費は一人1,000円でした

午前中の東聴連業務執行理事の越智さんによる基調講演では、現在の東京都聴覚障害者自立支援センターの土地の寄贈から贈与税の問題など建設にまつわるいろいろな話を聞くことができました。

福引の景品は、高田代表が用意したサンリオグッズと東聴連が用意したスポーツ関連メダルで、当選番号の中に230番台の方がいたことから午前中の参加者は250人くらいはいたのではないかと思います。

午後は噂の2025東京デフリンピックPR映画『みんなのデフリンピック』を観賞した後、全日本テコンドー協会による競技説明と選手による実演がありました。なぜ聴者の全日本テコンドー協会が?と思うかもしれませんが実はろう者のテコンドー選手がひとりもおらず、せっかく2025年に東京でデフリンピックが開催されるのにこのままでは肝心の日本選手が参加しない大会になってしまうとの危機感から少しでもテコンドーを知ってもらいたいとの事での登壇でした。全日本テコンドー協会のコーチいわく今からテコンドーを始めれば東京デフリンピックでは金メダルは無理かもしれないが入賞できるレベルまでには必ず育てると自信をのそかせていました。これをきっかけにテコンドー選手が誕生してくれるとうれしいなと思います。

その後は、野添さんによる国際手話とは?やデフリンピック(3人)によるトーク、そして最後はデフスポーツサポーターへの参加協力をお願いで、午後の盛りだくさんのイベントは終了しました。

今回参加されなかった方も、まだ東西北でイベントが開催されますので、近くで開催の折には是非ご参加下さい。
(報告：藤井)

2023年度 定期総会報告

7月9日(日)板橋区 板橋地域センターにて、都サ連総会が開催されました。出席21サークル・欠席3サークル(うち委任1)。来賓に「公益社団法人 東京聴覚障害者総合支援機構」理事長 兼「東京都聴覚障害者連盟」会長の栗野氏をお迎えし、品川手話サークルの白鳥氏の議事進行により行われました。

2022年度「活動報告」は全会一致で承認。会計報告も収支決算については承認。但し、会計監査日が旧年のままになっていたため、修正したものを後日配付することになりました。

2023年度「活動方針案」は、4月担当者会議で、「50周年(2027年)記念行事」を、何らかの形で行うということになったので、方針に追加することで承認、「年間計画案」も承認されました。

予算案については、以下の理由で保留になりました。2022年度分担金納入が、都合で総会までに間に合わなかったサークルがありました。支払が約束されていたので、収入の部に「未収金」として記載しました。入金されれば、2023年度予算に「未収金」が持ち越されることはないのですが、初めてのことで記載方法に混乱がありました。整理して修正案を作成し、後日、改めて承認をいただくことになりました。

◇2023年度役員は、以下の4名が昨年度に引き続き立候補、承認されました。

- 代表 高田直樹(手話サークルまちだ)
- 副代表 藤井 学(品川手話サークル)
- 事務局長 河野悠子(板橋手話サークル)
- 会計 剣持敦子(だるま会)

※事務局長は、所属サークルの推薦があれば総会での承認は不要です。(第14条-3)

今年度も、速やかな進行で無事終了することができました。活動報告を簡略化(質疑応答のみ)することで、

新年度にあたって

2023年度「手話サークルまちだ」から推薦を受け、今年度も東京都手話サークル連絡協議会代表を引き受けることになりました高田直樹です。

今年16年目の代表となり、一日も早く代表交代をしたいと思っていますが、2025デフリンピック東京の成功まではなんとか頑張りたいですね。どうぞよろしくお祈りします。

コロナ感染拡大の中の苦しい苦しい4年間のサークル活動や都サ連の活動でしたが、少しずつ元に戻りつつあるのではないのでしょうか？これからどんどん活動を盛り上げて行きましょう。

みなさまもよくご存じのテレビ番組だと思いますが、先日「チコちゃんに叱られる」を見ていたら、「東京の人が冷たいと感じるのはなぜか？」という問題がありました。

答えとしては、「情報が多すぎるから」という先生からの回答でした。

異常なほどの情報の過重負荷環境で疲れてしまい、無駄な関わりを防ぐ自己防衛によって、他人との関わりを持とうとしなくなるということでした。

引っ越しをしてきたときの挨拶も、引っ越し屋さんにお任せすることもあるようです。そういえば、その人の人柄にもよるのでしょうか、わが家の向かいのアパートにどんな人が住んでいるのか、今は全く分かりません。道路で倒れている人がいても、都会では自分が助けなくても誰かが助けるだろうという責任回避が起きるといってお話でした。

時々、「都サ連ってなんですか？」「都サ連は必要ですか？」という言葉を聞きます。とても残念な言葉なのですが、こういった話がサークルに何年も通っている方からも出てくるのは、都サ連事務局の責任もとても大きいと思いますが、都サ連に関わる者すべてが振り返る必要があるかもしれません。先ほどの話ではありませんが、「誰かがやってくれる」「自分でなくても」と、そんな思いはなかったのでしょうか。

2023年度の都サ連は加盟サークル数24です。コロナ禍の影響なのかかなり減ってしまいましたが、それでも会員総数は2000人を超える大所帯です。ひょっとすると、会員数が大きくなりすぎたために、無関心になっているのかも知れませんね。昭和52年に都サ連は設立されましたが、なぜ・なんのために都内のサークルが集まる必要があったのでしょうか？

手話を学ぶ一人ひとりが、聞こえない人の生活と権利を守る強い思いを持ち、無関心になることなく、都内手話サークル間の交流や情報交換をしたのではないのでしょうか。都内のサークルがまとまることによって、東京都の運動を盛り上げていたのではないのでしょうか？

各サークルも都サ連も所帯が大きくなることによって、サークルの役員も都サ連の事務局も、誰かがやってくれるだろうという方向に向かってはいませんか？

「なんのために手話を学ぼうとするのか」、「手話を学ぼうとしたきっかけはなんだったのか」もう一度初心に戻って考えて見ませんか？「自分がやらなくても」「誰かがやるだろう」ではなくもう一歩積極的に歩き出してみませんか？一人の力は弱くても、二人三人と力を合わせることで大きな運動に繋がります。ぜひ都サ連のお手伝いもして欲しいと思っています。

手話言語を広めるためには手話サークルの存在意義「こと」を考えて行動し、その一人ひとりの力が2025デフリンピック東京の成功にも繋がります。

どうぞご協力をお願いします。
東京都手話サークル連絡協議会
代表 高田直樹

コロナ禍が落ち着いたかと思える今日この頃ですが、このコロナによってもたらされたZOOMのような技術革新の恩恵は計り知れないものがあり、今まで高価で使いづらかった遠隔会議専用システムは無用の産物となりました。一方有名ろう講師にとっては自宅にいながら北は北海道、南は沖縄まで新しい受講生という顧客を開拓し、逆に教わる側としては東京に集中していて諦めていた有名ろう講師の講座に参加することができるようになり東京と地方との格差は縮まったのかも知れません。

私もデフリンピックの準備会議やその後の拡大会議はZOOMで参加させてもらっています

これに対して対面を基本としている手話サークルにとっては、会員数がコロナ前までにはなかなか回復せず、このことが休会や都サ連を辞めてしまう原因になっており、技術革新の恩恵を受けるにはまだまだという感じです。コロナによって仕事やその他日常生活を変えざるを得ない人がいかに多いのかがわかります。そんな方たちも手話サークルは辞めたけど、何らかの形でろう者や手話とつながっていて欲しいと思います。

都サ連の副代表として、まだまだ高田代表や河野事務局長にお世話になってばかりです。特に平日のイベントや会議に至っては、お二人におんぶに抱っここの状態です。ただしこれからは、今まで以上に都サ連の加盟サークルさんと交流し、それぞれの違いや問題点を認識し、どうすればもっと都サ連に親しみを持ってもらえるかを一緒に考えていきたいと思っています。また東京2025デフリンピックを通じて都内の未加盟サークルとの交流をはかり、都サ連に加盟していただけるような活動を行っていきたく思います。

東聴連の都サ連への信頼度は高まっています。特に耳の日文化祭は、都サ連なしには運営できないとさえ言っても過言ではありません。(あくまで個人の感想です。)なので、加盟サークルのみならず、もっと都サ連に加盟していることを自慢しても良いですよ！

(副代表：藤井 学)

2023年度も事務局長としてご承認いただきありがとうございます。コロナも5類に引き下がり、サークル活動も少しずつもとに戻りつつあります。この機会に都サ連活動も、もとに戻るだけでなく、新しい試みを取り入れて更新する形で活動を再開したいですね。昨年目標に上げましたが、「親睦」と「情報共有」がキーワードです。都サ連に参加すると仲間が増えて嬉しい、いろいろな情報が得られて楽しい…そんな集まりを目指します。

例えば、担当者会議の他に、ブロックを超えてもっと気軽に集まり、自由におしゃべりする場を1カ月に1回くらい設けて、参加はフリー・話題もフリー…という企画はどうでしょうか？都サ連の事務所(事務局長宅)なら、オンライン参加もOK、飲み物・食べ物あり、しかも時間制限なしでおしゃべりできます。ご賛同いただければ、すぐにでも企画いたします。「硬」と「軟」を上手に活用して誰もが参加しやすい都サ連にしたいです。

(事務局長 河野 悠子)

中野区手話サークルだるま会の剣持です。2023年度も会計担当としてご承認をいただきありがとうございます。

気づけば、会計を担当させていただいてすでに10年を超えておりました。その間、イレギュラーな事案が起こるたびにあたふたしている私が何とか役割を果たすことができたのは、皆さまのご助言とご協力のおかげだと痛感し感謝しております。

現在財政的には少々苦しい状況にありますが、いただいた分担金をきちんと管理して、ご協力いただきながら今年度も乗り越えていきたいと思っています。

2023年度もどうぞよろしくお願いいたします。
(会計 剣持 敦子)

参政権保障委員会を担当しています堀と申します。北区手話サークルです。

私たちの基本的な権利である参政権ですが、この令和の時代に入ってもまだまだ、聞こえない方にとっては、その権利行使にはバリアがある状況です。

1つ例をあげると、皆さん1度は見たことがあるTVでの政見放送。手話通訳・字幕が100%にはなっていません。この改善には、法律改正が必要な部分もあり、ハードルは高いということではありますが、委員会ではそういった課題を把握し、どのようにしたら改善できるのか？この課題を皆さんに知っていただくにはどのような企画が必要なのか？ など毎月1回、第3月曜日の夜に検討のための会議をしています。

聞こえない人の大切な権利を守るために、一緒に学び・活動しませんか。

(東京都聴覚障害者の参政権保障委員会 堀 浩司)

今年度も福祉対策会議に出席いたします、品川手話サークル 宮崎真理子です。

福祉対策会議では昨年度から盲ろう者友の会の代表者が入り、今までなかった盲ろう者の視点も合わせて考える機会が増えました。

まだまだ勉強不足で毎回吸収するものがたくさんあります。

東京都全体の動向を知りたい方にはピッタリです。随時一緒に活動して下さる方募集中です。

(福祉対策会議 宮崎 真理子)

主にTwitter (X) や大学生手話サークルとの連絡を担っています。

それぞれなかなか具体的な成果を明示できる分野ではなく、上手い人ならもっと派手に出来るのかなーなんて思いながらも、みなさまの応援のもと、諦めずに続けてこれています。

適材適所と言えるよう、頑張っていけたらと思います。よろしくお願いいたします。

(広報班 大木 知也)

杉並区の手話サークル杉の会の杉本美穂子です。2023年度も事務局員として活動させていただくことになりました。

引き続き、よろしくお願いいたします。

耳の日実行委員を担当いたします。

コロナに翻弄される数年を経て、漸く以前の活動に戻る兆しが見えてきました。

早くも、「次回の耳の日は、ナイトバーはあるの？」「占いコーナーは？」などと、訊かれるようになりました。

再開を心待ちにしている方も、たくさんいらっしゃるかも知れませんね。実行委員会は、皆さまに喜んでいただける耳の日を目指して、9月から本格的に始動します。

来年2月末の本番までの6ヶ月間に、都障館との打ち合わせや、企業・要員説明会なども含めて、約11回の会議がスピーディに行われます。時には、ケンカ…いえいえ、白熱の应酬も！

皆さまどうぞ、斬新なアイデアをお寄せください。お待ちしております。

例年、多くの方々の要員ご協力・ご来場ご協力をありがとうございます。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(耳の日実行委員 杉本 美穂子)

あとお一人大御所が控えておられますが、お忙しいようですので、次回デフリンピック裏話でも書いてもらおうかな？と思っております。もちろん本人の了承はもらっておりません。

2023年7月29日(土)・30日(日)品川区天王洲公園サッカー場において、『デフサッカー日本代表候補トレーニングマッチの観戦・交流会』が開催されました。29日に観戦された品川区聴覚障害者協会 三輪 雄幸会長より是非デフリンピックを盛りあげたいとのことで観戦記を寄稿いただきました。

「デフサッカー日本代表候補チーム 対 品川 CC セカンドの試合を観戦」

デフサッカー男子日本代表候補チームが7月29日(土)、元サッカー日本代表・榎野智章さんが監督を務めるチーム・品川 CC と練習試合を行いました。

試合を観戦・応援しようと予想以上に多くの観客が来ていました。

今までYouTube でデフサッカーの試合を見た事はありませんでしたが、生で観戦するのは初めてでした。

通常、サッカーという競技は、選手同士が声をかけあい、上手く連携を取りながらプレーをするチームスポーツですが、聞こえない選手同士がどのようなコミュニケーション(ジェスチャー、手話等)方法で、スムーズに意思疎通を行っているのを知りたいと思い、観戦しました。

結果は、前半3点先取したものの、後半、品川 CC セカンドチームに4点を奪われてしまいました。

しかし、猛暑での試合の中、頑張っている選手達の姿を見て、とても感動しました。

デフサッカーワールドカップや、2025年のデフリンピックでの活躍を楽しみにしています！

メダル獲得を目指して、頑張りたいと思っています。ご健闘をお祈りしています。

これからも、皆と一緒にデフサッカーを応援していきましょう！

(品川区聴覚障害者協会 会長 三輪 雄幸)



デフサッカー日本代表候補チームと品川 CC セカンドのみなさん

品川 CC セカンドは、神奈川県社会人2部リーグのチームでもちろん聴者のチームです。

この試合を観戦した品川手話サークルの K.S さんは「試合中は選手同士の声掛けやサポーターの応援が聞こえることがあり、試合開始当初は一般的なサッカーの試合と変わらない感じがしました。

それに対しデフサッカー選手の様子を見ると、プレー中の選手同士、また選手・監督間のやり取りにはアイコンタクトや手話、指差し、ジェスチャー等によるコミュニケーションが取られ、審判のジャッジもホイッスルと旗によるものでした。

サッカーに限らず、どんなスポーツでも音は重要な要素です。

とりわけ、サッカーはチームプレーであり、選手同士のコミュニケーションが必要不可欠です。

選手が頻りに周囲を注意深く見ている様子や、選手同士の意思疎通の方法など、視点を変えて試合を観戦すると、いつもと違ったサッカーの面白さや楽しさを感じることが出来ました。」との感想を送ってくれました。

また試合後も「来場した子供達から代表候補選手への質問、選手からボールをとってシュートするゲームなどの交流会も実施されていました。」とのこと。

デフサッカーは、男子も女子も比較的認知度も人気もありますが、それこそ先に報告したデフテコンドーなどは、認知度も人気も低く団体組織すらない状態です。また、今回のようにデフサッカーに限らず、いろいろなデフスポーツ大会が各地で開催されているのですが、何時?どこで?どのスポーツ?の情報がごく狭い範囲でしか発信されておらず、よほど気をつけていないと情報にたどり着けないという現状があります。今回のデフサッカーのテストマッチ&交流会もデフサッカーの関係者とデフリンピックを盛り上げたいという三輪会長の思いからろう協やサークルの機関誌に情報が掲載され、多くのろう者やサークルのメンバーに認知されました。(品川区限定ですが)しかし、それでも一般の人々には情報が届いていませんし、情報が届いたとしても会場まで足を運んでくれるかどうか分かりません。一般の人々にデフスポーツを知ってもらい理解してもらうためにはどうしたらよいか?東京デフリンピックまであと2年しかありません。早急に考え行動しなくてはなりませんね!

最後にみなさんの近隣で開催されるデフスポーツ大会の情報がありましたら都サ連の事務局までお知らせ下さい。

9月9日(土)10日(日)の2日間、群馬県川場村へバスハイクに行ってきました! コロナの影響で4年ぶりの開催となったバスハイクは、申込開始後、あっという間に定員に達し、再開を待ち望まれていたことが、よくわかりました。

バスと一緒に北上した台風の影響が心配でしたが、快適なサロンバスに乗って川場村へ行くと、天気は、みるみるうちに回復してきました。

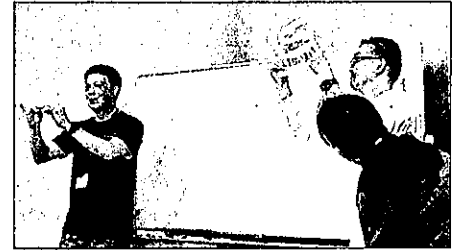
「ふじやまビレッジ」に到着すると、ちょうどお昼時です。

豊かな自然に囲まれた野外で、バーベキューを満喫しました。薪や炭を火にくべて、みんなで焼いた肉や野菜は、格別な美味しさでした。

お腹がいっぱいになったあとは、研修室に集まり、サイコロ自己紹介。

順番にサイコロを振り、「宝くじ100万円があたったら何をしたい?」など、出た目のテーマに沿って、全員が1分間トークをして盛り上がりました。

ゆったり、のんびり温泉につかって、地元の食材を活かしたお料理を堪能したあとは、交流会で、チーム対抗のゲームを行いました。



決められた「手の形」や「手の位置」、「手の動き」を使った手話単語を、リズムに合わせて表現していくゲームです。

日頃使い慣れている手話も、お酒に酔っている中、リズムに遅れないように表現しようとして慌ててしまい、単語の代わりに意味不明なポーズが飛び出したりして、皆さんの笑いを誘っていました。



2日目は、青龍山吉祥寺で、抹茶とお茶菓子をいただき、境内の美しいお花や景色を楽しんで、優雅な時間を過ごしました。

その後は、全国道の駅グランプリ2年連続1位の超人気スポット、川場田園プラザへ。広大な敷地に、地元の新鮮な食材を用いた食事処や土産屋など、魅力的なお店が並びます。

今年のバスハイクのテーマである、「ゆるゆるのんびり楽しく過ごそう~!」にピッタリの場所で、心からリラックスして過ごしました。

私は初めて参加させていただきましたが、たんぽぽの皆さんとの交流が深まり、最高の2日間となりました。

来年のバスハイクも、今から楽しみです。(脇谷内孝)




たましろの郷・畑中たましろ荘 見学ツアー

☆コロナ禍以前、年に一回実施していたバスツアーが、今年度から現地集合の少人数による見学ツアーとしてリニューアルしました！

☆恒例の「たましろの郷」だけでなく、7年前に開設したグループホーム畑中たましろ荘もご案内！

☆なかまと久しぶりに交流できます！初めての方はもちろん、なかまとの再会を楽しみにおられている皆さん、ぜひぜひご参加ください！

●期 日 毎月第一火曜日 9:30 ~  ~ 解散14:00 (予定)
(10月3日・11月7日・12月5日・1月9日・2月6日・3月5日)

●集合時間 午前9時30分

●集合場所 JR青梅線、東青梅駅南口 1階エレベーター出口 (施設担当者がいます)

●行 程 東青梅駅・・・「たましろの郷」・「畑中たましろ荘」5名ずつ入替で見学、なかまと交流・・・
昼食(たましろの郷)・・・なかま・施設長のお話し・自主製品販売・・・東青梅駅お見送り・・・
※状況により予定が前後したり、受入中止となる場合があります。ご了承ください

●参加費 1,500円(保険代・昼食・おみやげ付)当日徴収します

●内容 *施設見学は、なかまの皆さんが案内します

*なかま・職員と参加者との交流タイム♪♪ (一緒に作業することも?!)

●定 員 毎月先着 10名 (お申し込みはいつでも!)

●申込み 参加する月の10日前までにメールまたはFAXでお申込みください。
氏名・所属団体名(あれば・・・)・住所・電話/メール/FAX番号 をご連絡ください。
※ボランティア保険加入の為、住所が必要になります。

○たましろの郷、グループホーム畑中たましろ荘ってどんなところ？



たましろの郷

グループホーム畑中たましろ荘

聞こえと併せて他の障害がある「ろう重複者」を対象とした青梅市にある障害者支援施設(長期・短期入所)とグループホームです。

●お申込み・問い合わせ先

たましろの郷後援会

tamashiro@deaf.tokyo F/03-5464-6057 T/03-5464-6055

東京都渋谷区東1-23-3 東京聴覚障害者自立支援センター内

今後の予定 ※予定は都合により変更になることがあります

●10月

3	火	例会：全体会 雑居祭りリハーサル	8日(日) 雑居祭り
10	火	例会：雑居祭り反省会	
17	火	例会：班活動	20日(金) 相談会
24	火	例会：学習	28日(土) 烏山UDスタンプラリー
31	火	例会：講演会 かえで氏	

●11月

7	火	例会：全体会	17日(金) 相談会
14	火	例会：学習	
21	火	例会：班活動	
28	火	例会：学習	

・活動時間 19:00~21:00

編集後記

9月に入ったらひんやりと涼しくなるかなと思ったら、今年はまだ暑い！
「地球大沸騰」とか…やはり異常気象です。夏バテが辛いですね…
気温の寒暖差で体調管理には気をつけて!! <yu>



たんぽぽマップ

例会：毎週火曜 夜7～9時
(見学はいつでも自由です。直接会場へ)

手話サークル機関誌 たんぽぽ
 発行日：2023年10月3日(火)
 発行：手話サークルたんぽぽ
 発行責任者：大原 和男
 たんぽぽホームページ
<https://jsl-tampopo.amebaownd.com/>

講演会 問い合わせ先：
 世田谷区教育委員会事務局 生涯学習課
 Tel. 03-3429-4259 (Fax.03-3429-4267)
 講演会以外の問い合わせは直接例会会場まで

